

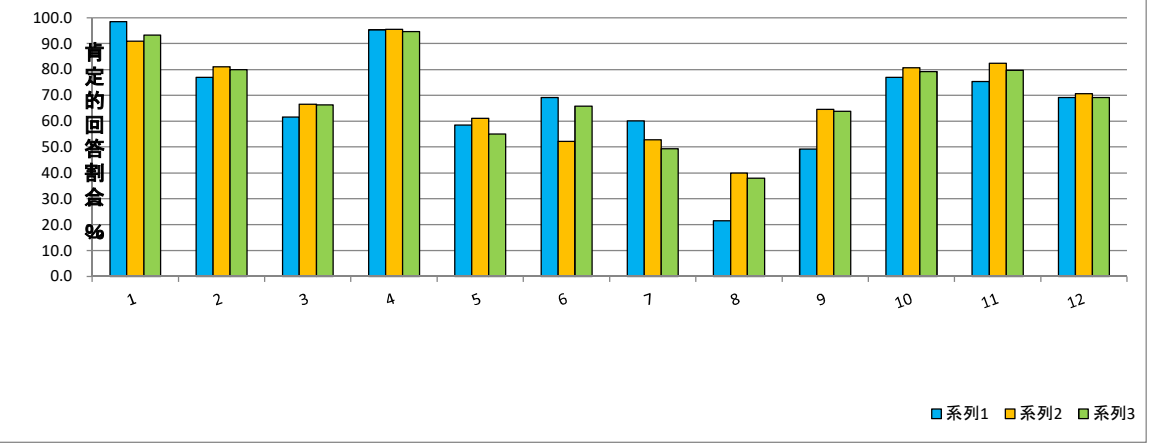
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○7年生(中1)から小学校の既習漢字や中学校で習った漢字の復習を積み重ねてきたので、言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率が高かった。 ○7年生(中1)の時から、書く活動を各単元で必ず行ってきたので、「書く」力をみる問題や記述式の問題の無回答率が比較的低く、正答率も全国・県の平均よりも高かった。 ●古典作品に対する苦手意識がある。	・今後も引き続き「書く」活動に継続的に取り組ませることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、書いたものを添削したり、生徒にお互いが書いたことについて感想を伝え合ったり評価し合ったりさせることで、的確な内容の文章を分かりやすく書く力を高める。 ・古典作品に対する苦手意識の強い生徒も多いので、現代の日常生活と結び付けながら読むことで古典作品を身近なものに感じさせられるような授業づくりを考える。
数学	○計算分野における定期的な小テストやカードゲームを用いて知識・技能の定着をはかった結果、数と式の分野の正答率が高くなっている。 ○定期的なレポート作成等を実施した結果、記述式の問題の無回答率も低く、正答率も全国・県の平均と比較しても高くなっている。 ●長い文章から要点をつかみ、問われていることを理解することが課題である。	・日常生活とリンクさせた問題について授業で積極的に取り扱う等、生徒の興味関心を引き付けるような授業を心掛けていく。 ・長い文章題を解く前に、その問題を要約させる等、要点をつかむ練習を授業の中に取り入れていきたい。
英語	○会話の流れを読み取り、適切な英文を書いたり完成させたりする等の、知識技能を問う問題は、数値としては高いわけではないが全国や県と比較すると正答率が高い。帯活動や小テストなどによる基本的な文法の定着が出来ている生徒が多い。 ●与えられたテーマについて、自分の考えや事実をまとまりのある文章で書くという思考・判断・表現に関する問題の正答率が低く、また無解答率が高い。自分の考えを持つこと、それを表現することに課題がある。	・基本的な例文を応用して、身近な話題について、自分の考えをまとまりのある英語で言ったり書いたりする活動をさらに授業の中で取り入れていく。 ・英語で話したり、英文を書いたりすることに対する苦手意識や抵抗感が少なくなるような、小グループでの学び合いや発表、添削活動など、学習形態を工夫する。

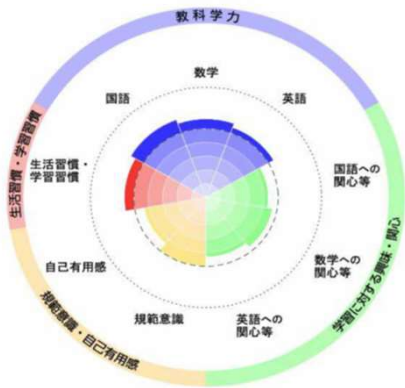
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○平日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が高い。 ○読書が好きと答えている生徒の割合と1日10分以上読書をしている生徒の割合が高い。 ●PC,タブレットを学習目的で使っている生徒の割合が低い。 ●地域行事への参加や地域への関心が低い生徒の割合が高い。	・進路目標に向けて継続的に学習することの意義を再確認し、学習方法についての指導・助言を行っていく。 ・総合的な学習の時間や職場体験などを通じて、地域と積極的に関わる機会を作る。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・グループでの交流や意見交換を通して、自分とは違う意見に触れたり、みんなで答えにたどり着くために考えたりする機会を設定する。
・学園ならではの縦のつながりや、地域の人々との関わりを生かし、学んだことを応用し、他の場面でも使える力を育てていく。

【受検者数】

65 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。